障がいのある人とその家族が
地域の中で尊厳を保ちながら
普通の暮らしが出来るよう支援する

NEWS

社会福祉法人
京都障害者福祉センター

10月号
No. 228 R4/10/3
編集：支援センター
発行：本部事務局
http://www.kyofc.or.jp

～新型コロナウイルス～リバウンドに警戒を～

9/24(月)～10/2(日)の市内の新規感染者数は、2,912 名で、1 箇月前の 8/22(月)～8/28(日)の 17,422 名と比較して大きく減少し、これまでと比べ桁違いの感染拡大となった流行「第７波」が落ち着きをみせてきています。

９月２５日で「京都 BA.5 対策強化宣言」が終了、９月 26 日からは感染者の「全数把握」が全国一律で簡略化されるなど、新型コロナ対策が大きく緩和されつつあります。

一方、過去２年を振り返っても、換気がしにくい冬場の流行は避けられないと言われており、インフルエンザとの同時流行も懸念されている第８波の到来に備えることが必要です。

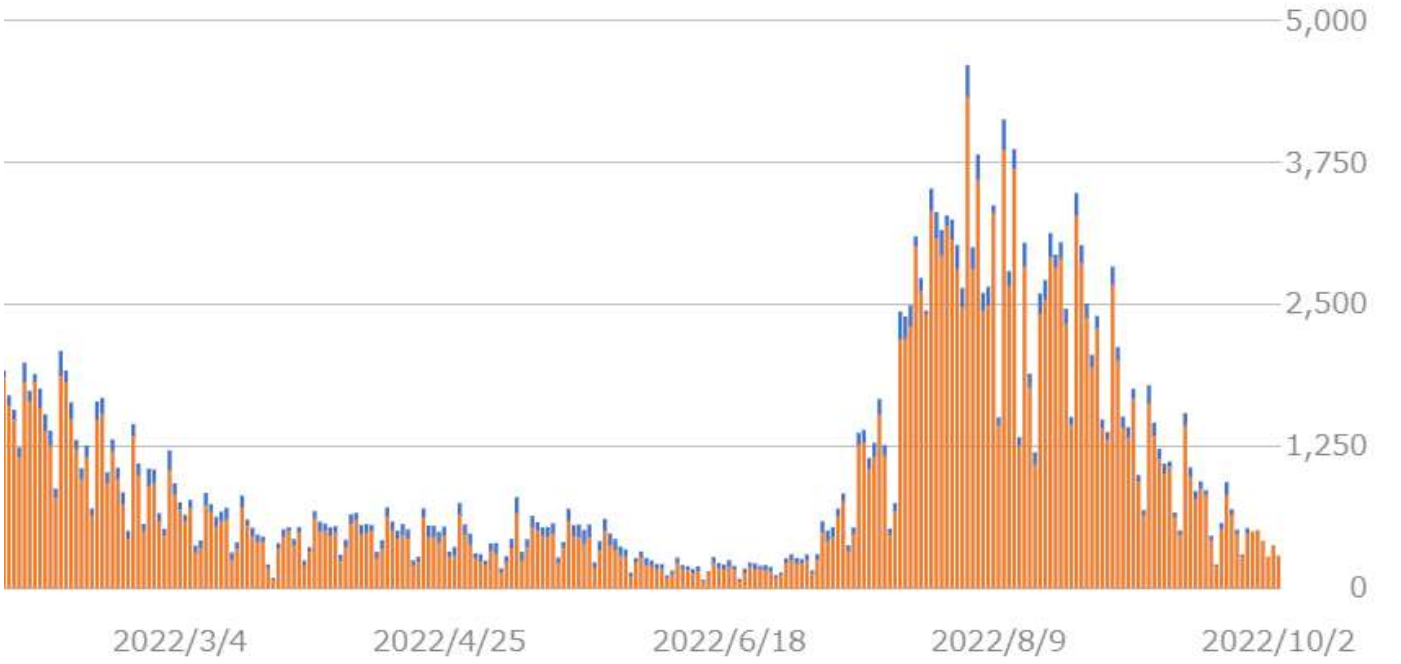
当法人の施設では、職員、職員の家族、利用者及び利用者の家族で、ＰＣＲ検査を受けられる事例が先月９月は 16 件（８月：26 件）で、累計で 296 件となりました。

第７波では、軽症者の容体急変や重症者の割合が低い割に死者数が多いなどの特徴がありました。

欧米のように「普通の風邪」と扱うには、とりわけ私ども障害者福祉施設では時期尚早と考えます。

職員の皆さんにおかれましては、引き続き、マスク、手洗い、距離確保、密の回避、こまめで十分な換気など、日々の感染対策、利用者、職員の健康状態の把握など基本的な対策の継続をお願いします。

京都市内の感染者数（日別）



（本部事務局）

洛南エリアTOPICS 【洛南身体障害者福祉会館：多機能型】

今年も花壇に ふうせんかずら（風船葛） が育ちました！

洛南身体障害者福祉会館では、事務所横にある花壇に季節を感じられる草花を植えています。
今年の夏も、昨年収穫した種を使ってふうせんかずらを植えました！

種を水に浸して植えたのが６月１７日。１週間ほどで芽が出て、８月にはこんなに大きくなりました。
今年は昨年収穫した種をたくさん蒔いたので、夏場はジャングルのように生い茂り、緑のカーテンの役割を果たしてくれました。
そしてそろそろ今年も収穫の時期です。種を収穫したらふうせんかずらは終わりですが、秋口の花壇もお楽しみに！

絵画を寄贈頂きました。

長年職員として洛南会館にパートタイムで勤務されていた西垣職員が、９月末で退職されました。
西垣職員の本業は画家（日本画）で、以前から会館事業の講師（スケッチや絵はがき教室）も勤めていただいておりました。
退職を機に、洛南会館に絵画を寄贈したいと申し出がありました。ありがたく頂戴し、現在はロビーに展示しています。
絵画「春の詩」は縦 2m 横 1.4mの大作です。洛南会館にお立ち寄りの際は、ぜひご観覧ください。

（京都市洛南身体障害者福祉会館　多機能型事業：安江 朋香）

伏見エリアTOPICS　【京都いたはし学園】

就労状況について

新型コロナウイルスが猛威を振るい始めてから一般企業様への就労が難しい状況が続いていました。求人の減少、企業実習の中止等いたはし学園から一般就労を目指す方にも大きな影響がありました。また、雇止めや会社の倒産などからいたはし学園を利用される方がおられるなど、今までにない状況が続いていました。

しかし今年度に入り社会情勢も少しずつ変化してきています。合同面接会の実施や実習の受け入れを検討して頂ける等、コロナ禍でも障害者雇用を進められる企業様が増えてきたように思います。実際にいたはし学園からも今年度に入り現時点で４名の方が雇用に結びつきました。９月にも１名が内定を頂いており、就労の動きが活発になってきたように思います。

まだまだ、コロナ禍という状況は変わりませんが、このような状況でも雇用を進めて下さる企業様とは連携を密に取り、より多くの方の雇用に結びつけられるよう就労支援を行っていきたいと思います。

健康レク！伏見桃山城まで歩こう！を実施しました

９月２３日（金・祝日）にコロナ禍での運動不足解消と今後の健康増進や体力維持を目的にした「健康レク！伏見桃山城まで歩こう！」を実施しました。生憎の雨天でしたが、学園～桃山城～桃山御陵までの距離（約８キロ）を皆さんと一緒に歩きました。途中に「疲れた～」と言う声もありましたが、久しぶりの運動に皆さん良い表情をされていました。

今後も皆さんの健康維持のため、第２回、第３回と健康レクは続けていきたいと考えています。今回は桃山城～桃山御陵というコースでしたが、次回以降も風景を楽しめる場所でリフレッシュしながら健康レクを実施していきたいと思います。

（京都いたはし学園：太田　敦之）

山科エリアTOPICS　【山科身体障害者福祉会館：生活介護】

『納涼会』をしました！！

山科身体障害者福祉会館（生活介護事業）では、８月２５日（木）に『納涼会』を実施しました。
みなさん赤と青の法被を着てお祭り気分満点！！この日のために職員が手作りした射的はなかなか本格的な仕上がりです。
射的の他にもスマートボールや的当てなど、お祭りならではのゲームで盛り上がりました。
午後からはみんなで手作りたこ焼きを食べました。たこ焼きはデイの行事では安定の人気メニュー。以前は下ごしらえから利用者さんと一緒に作っていましたが、現在はコロナ対策もあり、職員がたこ焼き職人に徹して、美味しいたこ焼きを提供しました。
最後は地蔵盆のように袋入りお菓子のお土産もあり、笑顔あふれる楽しい夏の１日を過ごすことが出来ました。

（京都市山科身体障害者福祉会館　生活介護：上長智子）

５２ヘルツのクジラたち

このタイトル、知っている方も多いかと思いますが、2021年に本屋大賞を受賞した「町田そのこ」さんの著書になります。

私がこの本を知ったのは、朝日新聞の天声人語（2021/4/16）の中でこの「52ヘルツのクジラたち」が取り上げられた事がきっかけでした。普段はあまり小説を読まないのですが、「長く虐待に耐え、生きづらさに苦しむ20代の女性、貴瑚（キコ）。育児放棄され声が出せなくなった少年、愛（イトシ）。人間不信に沈んだ２人が出会い、安らぎを得ていく…」と紹介されてあり、「これは読まないといけない」と職業的な強迫観念も湧き出て、出版されてから期間が開いてしまったのですが、先日本屋で見つけ早速読んでみました。

◯あらすじ…

主人公の貴瑚は妾（めかけ）（愛人）の子として生まれ、その後母が別の人と結婚。弟が出来た事で両親の愛情は弟へ、連れ子であり妾の子としての貴瑚は邪魔者扱いされる。家族として見られず、トイレに閉じ込められる。ある時からご飯は１日一食。殴られる事もあり、それが「普通」となっていた。

高校卒業時に父がALSとなり、母に初めて頼られる事で、貴瑚は幸福感を感じ、父の介護を24時間行う。しかし、疲弊し、父が60才にもならずに認知症だと医師から診断されると「あの人じゃなく、こいつが病気になればよかった。こいつが死ねばいいのに…！」と母から絶望の淵におとされる言葉を浴びる。「死んでしまってもいい」と思う時、アンさんに出会い、救われ、第２の人生を歩む事になる。

貴瑚は自分自身を取り戻していく過程で恋人ができるが、その恋人と関係が破綻。その経過の中でアンさんが自死。これまで住んでいた所を離れ、祖母が過ごした大分県の家に１人住まう。そこで虐待されて声のでない「愛」と出会い、彼の声を受け止めたいと考える。アンさん自身の「苦しみ」を知らず、その贖罪として…。

この本を読んで感じたキーワードは、「血の繋がり」、「血の繋がらない家族」、「虐待」、「家庭内DV」、「障害」、「トランスジェンダー」。まさに社会の縮図であり、社会保障の課題がこの小説で表出されています。

町田そのこさんは「好書好日」（https://book.asahi.com/）という情報サイトのインタビューにて次のように語っています。

「…声なき声にもいくつか種類があって、声をあげたい人、声をあげるのを諦めた人、そもそもあげることを知らない人などがあると思うんです。そういう人は虐待児童だけでなく、DV被害者やトランスジェンダーなどにも存在していると思い、いろんな人の声なき声を小説に織り込んでみることにしました」

「私が同じ状況に直面した時、少年に対して『うちに来たら？』と言えるかどうかわからないし、警察に連絡して終わり、ということになるかもしれない。でも、これを書き上げた時に、私も声なき声を少しでも聞きたいという姿勢でいたいし、気づいたら一

歩踏み出せるようになりたいと思いました。だから、この小説が少しでも読者の気づきになったとしたら、すごくうれしいですね」

支援センター「らくなん」でも、このような児童の虐待ケースがあり、どのように関わるべきか、日々悩むケースが多いものです。この本を読みながらも、自分だったらどうするのか、という事に考え巡らせながら、時に胸が痛くなり、時にすごいなーと感激を覚えながら読み進めていきました。

またこの本から学ぶべき点は、訴えてこないから大丈夫、ではなく「声なき声を聞く」という視点と姿勢だという事が分かります。「本人が言ってこないから、そのままで良いと思う。」のではなく、何を想っているのか、どのような事を考えているのか、背景を観る事、汲む事、そして関わっていくという事が大切であり、この事を改めて気付かされる事になりました。

ちなみに、この本のタイトルである「52 ヘルツのクジラたち」の意味ですが、通常のクジラは 10 ヘルツから 39 ヘルツの周波数で交流をしています。ただ世界に 1 頭だけ 52 ヘルツの音を出すクジラがいるそうで、周波数が違うため、触れ合える距離にいても気づかれないままでいる、世界一孤独なクジラと言われています。

様々なキーワードの中で、やはり子どもの生活を支えるという視点はとても大切なのだなと日々感じるわけですが、虐待などで傷ついた子どもを預かり、温かな関わりで共に生活をする「土井ホーム」というファミリーホーム（里親型グループホーム）が北九州市にあります。代表である土井髙徳氏が 10 月 29 日（土）に来京され、研修会が開催されます。

貴瑚や愛のように虐待による傷つきがあり、また知的障害・発達障害に対する不適切な対応から生じる生きづらさを抱える方のケース（どこの施設でも対応する事ができなかった子ども達）を治療的・教育的援助を通し、自立支援へと導いています。

土井氏は「見捨てない他者の存在は、他者への信頼感と自分の人生への希望を取り戻していくためには根源的な重要性をもつもの」と言われています。とても参考になりますので、ご興味ある方、一歩踏み出したい方、「52 ヘルツのクジラたち」の本を読むのとともに、研修会にもご参加いただけたらなと思っています。

※研修チラシを次ページに付けていますのでご参考に！

（京都市中部障害者地域生活支援センター「らくなん」:大塚 秀樹）

【2022 年度基幹支援センター研修事業】

人に携わる人達向けへの研修会

「関わりが難しくなっている事例への理解と適切な対応」

支援を必要としている方々に関わっていく中で、どのように関わったら良いのかと悩む、支援者やご家族は多くおられると思います。今回は、北九州でファミリーホーム（土井ホーム）を営み、どこでも対応が困難といわれた小中学生から高校生までのお子さんたちを深い知識と温かな関わりのなかで育てておられる土井髙徳さんをお招きして研修会を開きます。

土井さんの涙あり、笑いありの話の中から、関わりを必要としている方達を支えていくヒントを一緒に学びましょう。皆さんのご参加をお待ちしています。書籍販売、写真撮影、サイン会（握手なし）あります。

１　日　時　2022 年 10 月 29 日（土）13 時 30 分～15時 30 分

２　場　所　西陣産業創造會舘 2F コワーキングスペース（Impact Hub Kyoto）

（〒602-8061 京都市上京区油小路中立売下ル甲斐守町 97 番地）

３　対象者　　福祉サービス事業所の職員、ご家族、行政職員、教員等

４　内容　『関わりが難しくなっている事例への理解と適切な対応』

講師　土井 髙徳 氏（土井ホーム 主宰）

北九州市生まれ。北九州市立大学大学院非常勤講師、学術博士、保護司、福岡県青少年課講師、産業医科大学治験審査委員。

医師や臨床心理士と連携して困難な子どもを支援する日本で唯一の「治療的里親」として知られる。その取組みはNHK「クローズアップ現代」など3回にわたって紹介され、全国の教育者・保護者から注目を浴びている。著書に、「神様からの贈り物里親・土井ホームの子どもたち希望と回復の物語」、「虐待・非行・発達障害困難を抱える子どもへの理解と対応―土井ファミリーホームの実践の記録」、「ファミリーホーム開設・運営マニュアル―あなたにもできる小規模住居型児童養育事業」、「思春期の子に、本当に手を焼いたときの処方箋33」、「ちょっとしたストレスを自分ではね返せる子の育て方」、9月29日には小学館新書「怒鳴り親－止まらない怒りの原因としずめ方」を刊行。

５　参加方法　出欠票に必要事項をご記入の上、2022 年 10 月 21 日（金）までにご返信ください。

６　参加費　　1,000 円・2,000 円（新書付）※参加費は土井ホーム運営の寄付にしますので、1,000 円以上お好きな金額で！！

７　定員　　６０名

※先着順で受け付けをさせて頂き、定員に達次第、受付を終了します。

※障害による配慮（手話通訳等）を必要とされる方は、出欠票にその旨記載下さい。

※駐輪スペース等限られているので、公共交通機関をご利用下さい。

あて先）京都市中部障害者地域生活支援センター「にしじん」行　（FAX075-451-3619）

【2022 年度基幹支援センター研修事業】【 京都市中部障害者地域自立支援協議会 相談支援部会 研修事業】

福祉に携わる人達向けの研修会「関わりが難しくなっている事例への理解と適切な対応」出欠票

１　出席します。　　２　欠席します。

ご所属	
ご氏名	
ご連絡先（要 FAX 記載）	
必要な配慮	車いす使用・手話通訳・拡大文字資料必要・ルビ付き資料必要・その他（　　）
土井さんへの質問等	

（問い合わせ）京都市中部障害者地域生活支援センター「にしじん」担当：宇川・藤原

TEL：075-417-1630　FAX：075-451-3619　MAIL：ugawa@nishijin.org

地域ふれあい
秋祭り

Autumn Festival

令和４年

11/3 木・祝日

13：00 ～ 16：00

入場無料

ステージコーナー

会 場：洛南会館前 /（雨天時）会館２階

- ダンス『洛陽児童館　児童クラブ』
- フラダンス『南老人福祉センター』
- 和太鼓『ボランティアサークル　らくよう』
- 活動紹介『京都市手話学習会「みみずく」』

スポーツ体験ブース

ボッチャ・卓球バレー
会 場：洛南会館１階

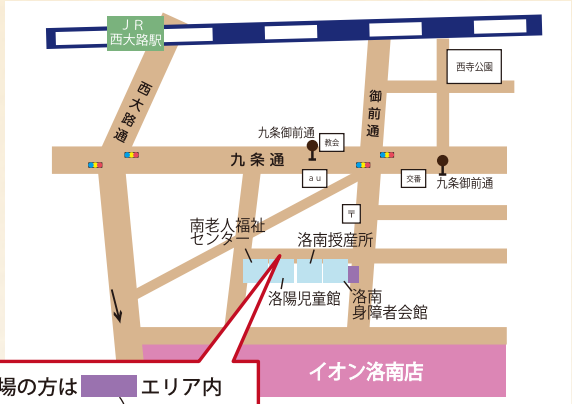
防災体験ブース

災害時に使える紙食器作り　他
会 場：洛南会館１階

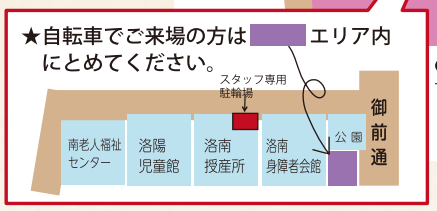
販売・体験ブース

授産製品
会 場：南老人福祉センター　中庭

※飲食物は屋台での販売はありません。
テイクアウトのみの販売となります。



●交通機関●
市バス　１６・７８・２０２・２０８
　　九条御前通下車　徒歩５分
ＪＲ　　西大路駅下車　徒歩 10 分



自転車でご来場の方はこちら

主　催　地域ふれあい秋祭り実行委員会
（洛南身体障害者福祉会館・洛南障害者授産所・洛南障害者デイサービスセンター あすなろ
・洛陽児童館・ 南老人福祉センター・南区社会福祉協議会）

お問合せ　洛南身体障害者福祉会館
南区吉祥院西定成町35
TEL:075-691-2468

当イベントはコロナウイルス感染予防対策を徹底して開催いたします。マスク着用や入口での検温など、お客様のご協力をおねがいいたします。
新型コロナウイルス感染症の拡大状況や天候により中止となる場合がございます。予めご了承ください。